

IV-2

特集 顔の輪郭を制する

ここがポイント

若々しい輪郭を作るための
皮膚に対する機器治療

伊藤史子

医療法人社団Xanadu あやこいとうクリニック 理事長

加齢とともに生じる、顔面骨や頭蓋骨の収縮に伴い、皮膚という臓器が、強度・厚み・弾力などを失っていくなか、若々しい輪郭を維持するためには、若々しい皮膚構造を維持することが必要条件となる。本稿では、皮膚全層を若い細胞に入れ替えることで、顔の輪郭を若々しく保つ治療機器について、当院で用いている各機種と手技に関し、症例画像を用いながら最新機種情報を織り交ぜて述べる。

はじめに

30代半ばより、性ホルモンの影響を受け、我々の頭蓋骨・顔面骨は縮小傾向をたどる(図1)。一方、骨格を覆う皮膚の面積には大きな変化が生じないため、余剰となったことで生じる弛緩に、重力の影響に伴い、緩みやたるみを認めるようになる。こうした、加齢に伴う顔の輪郭から頸部にかけての緩みや下垂の改善を希望して来院する患者のなかには、長時間のダウンタイムや傷痕の問題から、手術的加療を敬遠する者も多く見受けられる。

若々しい輪郭を維持するためには、収縮する骨の変化に合わせて、余剰となる皮膚も少しずつ収縮させ、緩みやたるみを最小限に留めることが必要となる(図2)。

若々しい輪郭を作るために
必要な事項

近年、患者が理想とする顔の輪郭とは、単に下顎骨に沿ってフレームが浮いていればよい訳ではなく、艶やかで弾力に富み、テクスチャーそのものが整った、見るからに若々しい皮膚が形作る外観である。そのためには、皮膚全層が若い細胞で構成され、重力や表情などに対し、ある程度の強度を有することが必要条件となるため(図3)、当院では、一期的な皮膚全層治療を行っている。

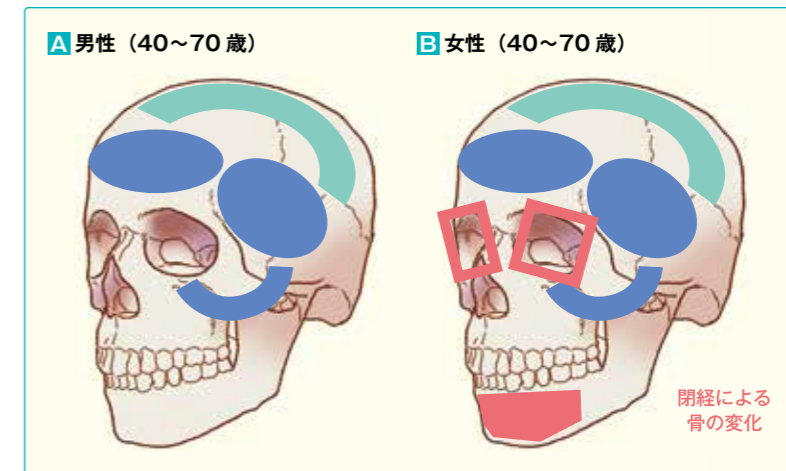


図1 加齢による頭蓋・顔面骨の骨吸収

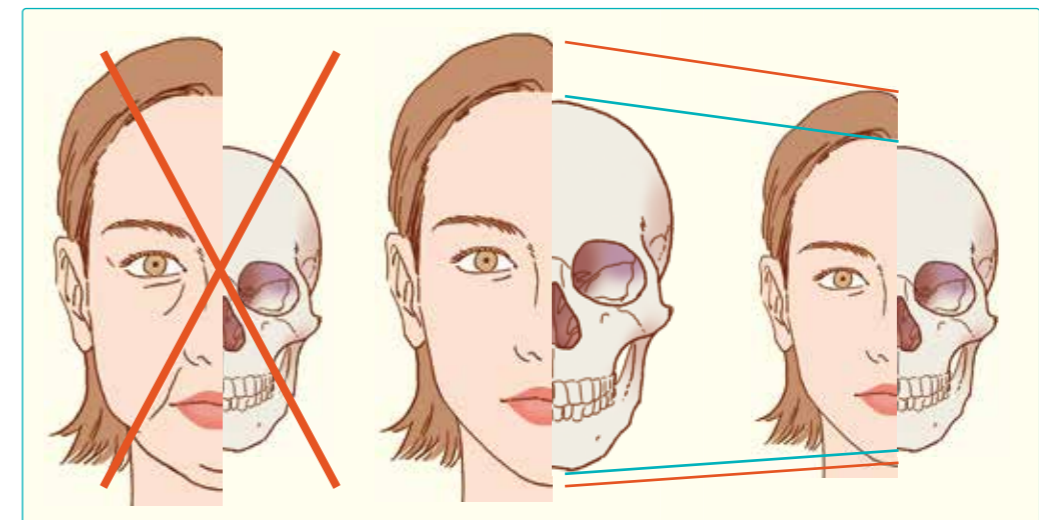


図2 骨吸収に合わせて皮膚全層をタイトニング

骨の吸収度に合わせて皮膚もタイトニングできれば、輪郭の緩みを最小限に抑えることができる。

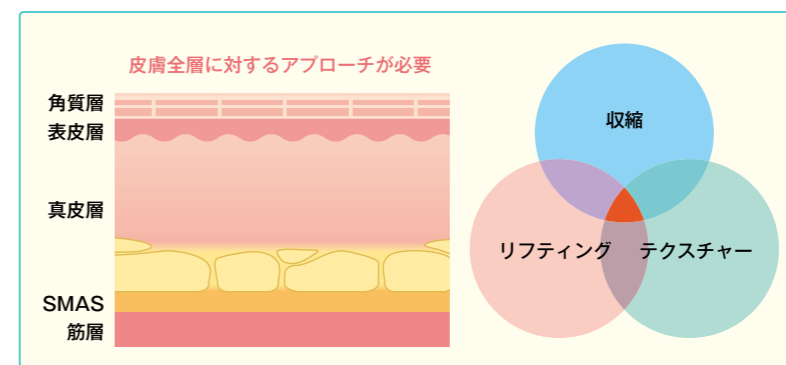


図3 若々しい輪郭を作る皮膚に必要な事項

若々しい顔面の輪郭を作るには、皮膚自体のテクスチャーや厚み、弾力が必要となるため、皮膚全層に対する治療が必要となる。